

## 令和4年度 第3回 備前市公共交通会議 会議録要旨

開催日時：令和5年2月8日（水） 13時30分～15時15分

開催場所：備前市役所 3階 大会議室

出席委員：吉村 武司【備前市長】  
濱山 一泰【備前市市民生活部長】  
小野 一嘉【県タクシー協会和気支部】  
高田 将太（代理）【西日本旅客鉄道（株）】  
雄島 仁【大生汽船（株）・日生交通（有）】  
金本 伸一【備前市自治会連絡協議会】  
川邊 健作【備前市自治会連絡協議会】  
松本 和好【備前市老人クラブ連合会】  
松嶋 泰憲【中国運輸局岡山運輸支局】  
東原 良樹【岡山県備前県民局東備地域管理課】  
坂手 孝行【備前警察署】  
松尾 恭子【岡山県県民生活交通課】  
青砥 良定【瀬戸内市総合政策部企画振興課】  
河野 憲一【和気町総務部危機管理室】  
出席委員 14名  
委任状提出委員 7名

事務局：市民生活部公共交通課  
杉山（課長）、河上（係長）、千田

### 1. 開会

### 2. 会長あいさつ

- ・日頃より市政、並びに市内の公共交通行政に深いご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。第2回公共交通会議で高齢者をはじめとした交通弱者の利便性向上を目的としたデマンド型乗合交通を令和5年4月から実施するため、ご協議いただきました。今回は、さらに事務局より詳細な説明を行い、これについて協議していただくこととしている。今後の備前市にとって、より利便性の高い公共交通体系になるよう、備前市としても是非とも進めていきたいと考えている。活力ある地域社会の実現に向けてお力添えいただくようお願いしたい。

### 3. 議事

#### (1) 令和5年度備前市デマンド交通運行計画(案)について

事務局：(説明)

会 長：事務局の説明について質問があるか。

委 員：運転手が電話受付や配車をすることが負担になると思うがどうか。特に最初は、我々も想像できない問題点が出てくるのではないかと思うが、その辺りはどう考えるか。

事務局：当初の計画では、いろんなことを想定し電話については、専門のところでも考えていたが、このデマンドは小学校区単位でありエリアをかなり限定している。利用者の方の移動も比較的短い距離になると想定し、まずは運転手が電話を受け、市民の方とのコミュニケーションをとりながらスタートさせることを考えている。また、開始後の状況について、運転手に聞き取り等を行っていくことを考えている。

委 員：もう1点、Q&Aの中で、複数人が利用する場合は、代表者の方が申し込みをすればいいとなっていた。その中で、考えたのが、お年寄りには仲間意識があるので例えば、病院での会話で、「私はデマンドを予約しとるけど、あなたは？」と聞いた時、「いや何もしていない」という返事になれば、「同じ方向なら一緒に乗ったらいんじゃない」というようなやりとりも起こると思うがどう考えているか。

事務局：当日の予約については受け付けないことでスタートさせたい。行きは予約がしやすく、帰りの予約が立てにくいと思うが、前日までに予約をすることを徹底して市民の方をお願いしていきたい。

会 長：ここで問題になるのが、行きは良い良い、帰りは・・・例えば病院が混んでいて、10時と思って予約していたら、実際11時半になった。こういうことが現実にかかる。デマンドバスは、市民の皆様、委員の皆様が決めてくださればいいんですが、あくまでも公共交通機関がある場所までが前提。市営バス、宇野バスのバス停、あるいはJR山陽本線、赤穂線の駅までを前提にしている。使い便利が良さそうで、市民のみなさんが「あそこまで行ってくれ」と言った時に原則を大事にするかどうか。高齢者や妊婦さんには負担のない範囲で運転手が必ず次の予約には間に合うようにする。例えば病院に迎えに行くことは原則考えていなかった。ただ、毎日フルに予約が入るとは思っていない。通常のデマンドというのは、山間部に家があって、全く公共交通機関がない、そこで乗合でふもとに降りて、病院、買物に行くという究極の過疎地におられる方の生活支援である。都市部で公共交通やタクシー、その他の有償輸送がある中で実証実験をしていこうというのが本市の考えで、実際、市民の皆様方がどこ

までご協力いただいてこの制度設計が前に進むのか、一人の人が独占的に自家用車並みに使うものではないと思っているので、あくまでも交通弱者を、公共交通機関のあるところまでが原則である。平地ばかりでなく坂もたくさんある備前市なので、公共交通機関を使いたいけど、全然使えないと市民の皆様方から話を聞いた。備前市には11のバス路線があり、これだけの公共交通網を持っているのは、日本でもそんなにならぬと思うが、そこを補完して何ができるかというところも実証実験としたいと考えている。多分、1年ばかりでいろんな改善点が出てきたうえで、例えば、小学校単位と言っても、吉永は大変広い範囲になる。吉永の三国、八塔寺は、基本的に市営バスとしてはなかなか使えないので、何かできないか。また、伊部と片上は、わりと小さな面積だが、人口が多い。そういった中で実証実験をし、吉永だともう一台いるのか、あるいは、伊部と片上は、一つの地域としていいのかなど利用回数や市民のご意見を求めていながら、一年二年経って交通弱者がいないようにしていきたいという政策である。せつかく税金を使ってやるのだから、担当もいろいろ想定し検討している。また、新車でスタートさせたかったが、納車に時間がかかるということで、市の所有する車両で四月から始め、電気自動車が準備できれば入れ替えていこうとしている。そんなイメージをもっていただきたい。

委員：前回は会長の言われる、公共交通機関までの利用となっていたが、今回の資料の「デマンドと公共交通機関の利用例」には、病院や商業施設の名前も出ている。そこまで大丈夫なのかと思ったところだ。このデマンドについて、どう市民に周知していくのか質問した。広報だけなのかどうか。もう一点、次の議事になるが、片上和気間を走っているバスの時刻表が資料になかった。デマンドとあわせて使うのなら、どこのバス停にいけばいいのかわからないので資料がなかったことについて、質問したい。

事務局：まず市民への周知については、実証運行まで期間が短いため、各区長さんに協力をいただきながら全戸回覧等を予定しており、地区から要望があれば説明に出向きたい。また、本庁や備前病院には、デジタルサイネージがあるので、そこで情報を流すなど、市民の皆様の話題にしていきたい。

今回の資料に、デマンドと公共交通機関を使った具体的な利用例を掲載した。バスや電車の時刻も掲載したかったが、情報量が多くなるので資料には省いている。実際に問い合わせがあった場合は、時刻等をお知らせしながらご利用へとつなげていきたい。

次にバス路線の件について、今回の資料では、変更のある路線のみを掲載しているため変更がない片上和気線については掲載していないということでご理解いただきたい。

委員：前回会議で申し上げた問題の一点目は、解決済みとさせていただく。タクシー

事業者の売上棄損、官業による民業圧迫だが、市バスへの参画及びデマンドへの参画をお許しいただいた。ただ、これで全てのタクシー事業者が解決済みになるわけではない。なぜなら、市営バスにもデマンドにも参画しないタクシー事業者がいるわけで、この場でお約束いただく必要はないが、備前市様から何らかの歩み寄りというものがいただけるのかなと希望的観測を持って解決済みとさせていただく。次は公共交通の安心安全の問題、点呼だ。点呼はマスト、必ずやらなければならないもので、公共交通でなくても安全運転管理者という形で、公共機関だろうが企業だろうが実施が求められている。その中で、対面点呼を行うということは必須事項だと思う。前回会議の中では、会長様のほうから遠隔点呼という話も出たが、実状として一年の実証実験のために導入すると莫大な費用がかかるから、それが正しいと思えない。対面点呼をすべきだということをご希望、お願いしたいと思う。他のデマンド事業者、岡山県内多数あると思うが、そこで対面点呼を実施していないことが備前市において実施しないでいい理由にはならない。グレシャムの法則で、悪貨が良貨を駆逐するを見習う必要がない。ぜひこれを御検討いただきたいと思う。

事務局：点呼については、必要だと考えている。点呼の体制が十分でない事業者については、備前市営バス管理事務所に常駐している運行管理者が行う形で徹底したい。

委員：Q&Aで読み切れないところがある。予約が殺到した場合、先着順で打ち切ったりするのか。利用目的として、最寄りのバス停へ行く方を優先するとか、高齢者とか足腰の悪い方が通院される方を優先するとか、予約のルールを想定しているのか。

会長：病院に行く人について診療の内容までわからない。たとえば、腰痛の人と心臓の悪い人が予約する場合、心臓の悪い人が予約するまで腰痛の人が待つというわけにはいかない。一週間前から予約がスタートする。大型バスでないので、最大で4人。できたら3人なので、利便性がいいものでもない。あくまでも車を持っていない人が公共交通のバス停まで行く。全員をデマンドで救えるとは思えない。一回やってみて、予算や人員の関係もあるので、これが将来的な本格運行になるのかどうか。基本的にマイナンバーカードを持っていると無料になるシステムを考えているので、家まで来てくれてバス停まで送ってくれる。でもそこに5分、10分かかる。そして、次の人を乗せる。いろんなケースがあると思う。市営バスで一番充実した11路線を持ち、吉永では、軽自動車をお渡しし、地域のボランティアの人で活用してもらっている。東鶴山は、スローモビリティ、ゴルフカートのようなものを運行している。ただし、東鶴山の交通量を考えると大変危険性もある。いろんな公共交通を備前市は実施しているが、これも全て予算と人員が必要で、あくまでも議会に提案する予算の範囲の

中で続けたり、あるいは、したくてもいろんな重要な予算があれば廃止しなければならない場合もある。ただ、議会の人達も交通弱者の人を市営バスに乗りたくても乗れない人を市営バスのところまで、あるいは宇野バス、赤穂線、山陽本線という点について一致している。努力は常にしたいと思っているが、このデマンドでバラ色の交通行政が完成するとは思っていない。想定していたらきりがないので、まず交通弱者でバス停までいけないという人やこの前まで免許証をもっていただけ返納した人、また返納も進めればいいのか。返納したらおかやま愛カードをもらえるから割引になるからメリット性だと思うが、自分のまちにこういうデマンドがあるんだということで無理せず返納し活用して欲しい。ただ、人口が減少しているので財政上のこともあるし運転手の事もある。また、行けるところを行けないところがある。それらもよく勘察しながらとりあえず安全で安心な運行をやらせていただければというのが担当の思いであるので、ご理解いただきたい。

委員：安全安心というのは、一番大事にしている部分でありますので、そこは必ず念頭において運転すべき、しなければならないと思っている。前回も言ったが、利用条件として、市民全員が利用できるものだが、交通弱者のお助け要素を優先しているところ、そのところのマッチングが上手くいかないことがあるのであれば、最初から利用条件を制限することを考えてもいいのかと思った次第だ。

委員：予約方法について質問したい。電話で運転手が予約を受けるということに変更になったと思うが、電話番号は運転手個人の電話番号を皆様に公表することか。

事務局：市の方で電話を用意して配布させていただこうと検討している。

委員：以前はタブレットでナビゲーションをしてくださると言われていたが、その機能はなくなるのか。

事務局：はい。

委員：それではたどり着けないところを呼ばれたらどうするのか。タクシーでもよくあるが、到底たどり着けない狭小な道の奥で呼ばれ、その方はご自宅にしか電話をお持ちではなく、出たら最後連絡がとれないということがタクシーでもあるが、想定されているか。それとも、やってみなければわからないからやってみるということか。

会長：そういうことが発生するのだろうか。予約をした時にその電話番号がわかる。地区単位で使うわけだから、電話を受けたときに行ける行けないは、多分わかるのではないかと。岡山のタクシーが夜中に拾って例えば三国の先に行けと言えばナビゲーションもいると思うが、原則的に備前市内の利用でそんなに広い範囲ではない。最終的にデマンドの運転手と担当課で相談することがあるかもし

れないが、どの道を通っていくんでしょうかとか、とんでもないところからデマンドの要請があるということはないかと考える。全く行く事のないような場所に住んでいる人から要請があることは想定しなくていいのではという気がする。

委員：すみません。タクシーでは、そんなことが結構起きる。今は、入れない道も比較的都市部であっても結構ある。

会長：入れないところをデマンドで無理して入ることは考えていない。

委員：登録されてあれば、登録された時点で住所を確認できるが、登録がなくても利用ができるということであれば、今までご利用なかった方がご用命頂いたときは、たどり着けないこともあるかと想定する。

会長：基本的に一週間前の予約を頂戴している。その日に突然来てくれということはありません。当然、一週間前から前日までの間に、もしそのような場所があったら、当然お断りしないと、行きますと言って行けなかったら大変なことになりますから。市内で車が通れないところを無理やり行こうとか、生活道路をしょっちゅう行こうとかいうことでなく、あくまでも交通弱者の方が市営バスや公共交通機関を利用してもらいたい、自分のところは不便だという方のためであるということを理解していただきたい。

委員：わかりました。ただ、今まで50m歩いて出てきてくださった方が、今は車椅子とか杖をつくなど出てこれなくなる。そういったことが日常的にタクシーをやっているでも起きている。ただ、予約があるので住所を確認すれば問題はないと思う。

委員：予約を運転手が受けることになっている。運転手が運転の業務に当たりながらうけるという認識でよいか。

事務局：デマンドの運行時間と電話の受付時間が全く同じであるため、そういったこともあるかもしれないが、常に運転中というところも想定していない。ハンズフリーもあるが、運転中は安全安心を前提に運転していただくことになる。その中で、電話の受付については検討しているところ。

会長：電話したら必ず出るということはないと思って欲しい。乗っている人からすれば、運転手が電話でいろんな話をしているのを聞くことになるから運転に集中してもらいたい。いつ電話してもつながるという便利なものではない。例えば、「今は運転中だから出れません」という機能を入れておく以外に方法はない。コストをどうみるかが問題で、市役所でオペレーターを専属で持つとしたら備前市のような小さな町では予算上成立しない。できる限りシンプルで、予算上最大の効果を上げるとなると、いつでも電話をかけていつでも予約できるというものでもないと思う。市民の皆様も学習しているわけですから、繋がりやすい時間もわかっていくと思う。小さな地域でデマンドを皆様に賢く活用してい

ただけるのであれば、行政は税金を使って継続していける。うまく活用できなければ、安全安心が一番ですから、実証実験をやめなければならない。これをやれるかやれないかは市民の皆様の賢さというか、行政の政策を活用していただくこと、運転手もサービス精神をしっかりと送迎を持ってしてもらわなければならない。普通の自家用で速く走って送ってしまえばいいというものでもない。運行している間は、市民の皆さんが常に見ているわけで、制限速度を超えて送迎しているのもわかる。運転手とエンドユーザーである市民の皆様がうまく活用していただけるのであれば、できれば私が市長でいる間は、市の政策として続けていきたいと思っている。最終的に不要だと議会で否定されると予算がとれないのでやめていかなければならない。二月議会に議員さんから説明があったら今日の議論を踏まえて議会にも説明しなければならない。そういったこともあり、今日、公共交通会議を開催した。

会 長：ほかにないか。ほかにないようであれば、令和5年度備前市デマンド型乗合交通運行計画(案)についてご承認いただいたということでよいか。デマンドには電気自動車を導入しようと思っているが、なかなか電気自動車が入らない。発注はしているが、五人乗りの電気自動車を導入する。軽自動車の電気自動車もあるが、事故が起きたことを考え普通車にしている。日産のリーフは、納車までかなりの時間がかかるということ、また、リースの電気自動車もあったが、市の財産であるので、リースより長く所有し使用するというで対象車としなかった。発注している車のカラーはブルー。市営バスがあずき色でデマンドはブルー。また、わかりやすく番号を入れるなど、例えば伊部地区は3番とか、香登は5番とか市民の方が理解できるように担当課は考えている。

委 員：(承認)

会 長：次に令和5年度備前市営バス運行路線(案)について事務局より説明願いたい。

事務局：(説明)

会 長：ただ今の説明についてご質問があるか。

委 員：車両がハイエースからマイクロバスに変わるということで、バス停を廃止されている。その関係で道路幅員の関係は、どうなっているか。変わっても通れる場所ばかりか。

事務局：はい。そう認識している。

委 員：確認はされたか。

事務局：そこまではしていないので、資料を作成して後日相談に伺いたい。

会 長：ほかにあるか。ないようであれば、この案で進めさせていただきたいので承認をお願いする。また、先ほどあったようにバス規格が変わった件について事務局から協議に伺うので、ご指導願いたい。

委 員：(承認)

会 長：次に、議事3 令和5年度備前市営バス料金（案）について事務局より説明願いたい。

事務局：（説明）

会 長：質問があるか。

委 員：市営バスは一部区間宇野バスさんと並行しているが、宇野バスさんは重複区間そのまま運賃をとって、市営バスに乗る方で、マイナンバーカードを持っている方は無料となれば、宇野バスさんの経営に少なからず影響が出てくるのかと思っている。その辺りについて調整等されたか。

事務局：宇野バス様には、ご案内を差し上げたが、本日はご欠席ということで委任状をいただいている。直接お話をしたいと交渉しているところであり、引き続き調整をしたい。

会 長：国の実証実験で、群馬県の前橋市において、マイナンバーカードを活用を行っている。担当も前橋市へ視察に行っている。備前市のようにこれほどの市営バスを市の予算で走らせているところはない。これは皆様の税金を使っているが、売上げがそんなにあって、経費が賄われているものでもない。市民の皆様の公共交通として、市で独自の政策をしている。マイナンバーカードの活用をして無償化したからといって、無害かどうかはわからないが、マイナンバーカードを全市民が持っているわけではない。ただ、方向性としてこのキャッシュレス時代に市の行政上お得感、例えばこの間条例が通ったが、住民票をコンビニでとれば10円で取れる。市役所にくれば300円。このように市役所に来なくてもコンビニが、四・五箇所あるので、そこでとれば10円で済む。こういうことがマイナンバーカードの普及に繋がる。最後は、行政もデジタル化で行財政改革をしないとだめだろうと考えている。100円200円をいただくことはやぶさかではないが、マイナンバーカードを使ったデジタル田園都市備前を考えた時に、わずかなお金ですが、無料化することによって、広く市民の皆様にデジタル社会のキャッシュレスがちょっとでも進むのではないかと考えている。これは二年間の限定でもあるので、それ以降続くかどうかはわからない。また路線バスも同じで続くかどうかはわからない。経費が全額交付税算定にはなっていないわけで市税を使っていかなければならない。いろんなことがあるが、市民の皆様に何が一番いいか。独自の政策も必要だが、あらゆる国内の政策を活用して、できる町があればそこを見に行き参考にし、先進県、先進市の状況も見ながら市民の皆様にこのようなサービスをする。同時に民間の経営も大切であります。宇野バスさんも懇意にさせていただいている公共交通バス会社であるので、ご理解をいただきながら進めて行きたいと思っている。事務局、補足があればどうぞ。

事務局：補足はない。



会 長：それではバス料金についてもそのようなメリット性を持たせたいと思う。ご理解いただいたということで良いか。

委 員：(承認)

会 長：次に議事4 瀬戸内市営バス美和線の停留所「飯井東谷」新設に伴う路線変更について事務局より説明願いたい。

事務局：(説明)

会 長：質問はないか。この地図にあたる路線はどの辺にあたるか説明を。

事務局：備前市の東鶴から佐山に抜けてその先を行くと坂本運輸さんがあるが、ちょうど備前市と瀬戸内市さんの境で瀬戸内市さん寄りの飯井という地区になる。

会 長：ご意見がなければご承認いただきたいと思う。

委 員：(承認)

会 長：本日の協議は四点終了した。せっかくの機会なので、何かあればお受けしたい。

委 員：備前市様が始められている地域通貨にとっても期待をしている。二月一日から備前市の地域ポイントがスタートしていて、うちにもお客様から問い合わせをいただいている。本来なら一社一台しか端末をいただけないということでタクシー1台にしかポイント精算機が積めないと困っていたが、先日ご相談の結果、複数台お貸しいただけることができたので、備前市の地域通貨を使ってタクシーをご利用いただけるようになった。非常に先進的な取り組みで大きな期待をしている。この推進をお願いしたい。

会 長：キャッシュレスの時代に備前市が市民の皆様にプッシュ方式で早めにいろいろご支援をする一つの考えとして、ポイントを市民の人にお渡しをし、ポイントを備前市内のおよそ80から90の営業している方のところでそのポイントを使っていただくというのが先ほどの話。一台が複数台になったのは良いこと。マイナンバーカードに個人口座を7500ポイントで申請をされているので、ポイントで付与していくのが新しい流れだと考える。22,000人くらいの方にマイナンバーカードを取得していただいているが、今日、岡山県下の取得数のデータを担当部長からもらった。備前市はおかげさまで申請数が、全市民32,000人の中の80%を1月末現在で超えたことになった。県下では一番高いが、全国的に見ると宮崎県の都城が既に90%以上普及しているそうである。これからはキャッシュレス時代になるので、現金を持ち歩かなくてもスマートフォンからポイントを活用するのか。或いは、スマートフォンが使いにくい高齢者の方には、カードで買い物ができる。現金で渡すと天満屋・高島屋で買い物ができるわけであり、やはり地域の経済の活性化が一番大事なため市内で使っていただく。少しずつ全国の事例を参考にしてやっていきたい。今回も既にマイナンバーカードを持っておられる方に、2000ポイントをお渡しした。来

年度の当初予算にもいろんな制度を入れている。まだマイナンバーカードを取得していない方が周りにおられたら早めに取得していただくということをお誘いいただければ非常にありがたいと思っている。

委員：議事が遑り恐縮です。デマンド交通のところで、運行事業者さんは公募によるようだが、契約の体系というか一回当たりいくらお支払いするとかどういった契約になっているか差し支えなければ教えていただきたい。

会長：年間400万をお渡しする。電気自動車を考えているが、一日にフル充電をすると400円くらい電気代がかかるよう。計算すると年間12万円ほどになり。経費を見たときにガソリン代はいらないので、400万から引き算した388万くらいが実際の収入になるのではないかと想定している。どういう方がこれから手を挙げられるか各地区で10名を選ばせていただきたい。例えば伊里の方が複数おられて他の地区を担当することも出てくることもあるかもしれないが、新たに市民の皆様にご手を挙げていただき新しい仕事の一つと捉えていただきたい。瀬戸内市さんとはお互いに新しい政策を共有し、この東備地区が元気になるればいいと思っている。瀬戸内市さんの市営バスも備前市にどんどん入って運行して欲しい。

委員：電気自動車だが、日々の点検、維持管理などについてどうするのか。市の公用車であれば市内にある整備会社とか割り振りをして行っていると思うが、整備とか運用とかどう考えているか。

会長：先ほどなぜこの会社になったかを説明した。納期が早ければよく知っている日産のリーフが良いだろうと思っていたが、納期がかかりすぎるということで選択できなかった。フォルクスワーゲンが出しているid4という車両がある。トヨタ自動車もあったが、買取ができなかった。リースなので備前市の資産にならない。納期や5年を耐用年数とした経費で比べた際にフォルクスワーゲンとなった。この車両もトヨタ車両も試乗をしたが良い車である。市営バスについても電気自動車が発売されたらそれに変わっていききたい。

また、皆さんがご存知か、東京オリンピックの選手村を走っていた無人のパレット自動車がある。そこを委託した方が、備前市で自動運転の市営バスとして実証実験をさせてくれないかという申し出があった。今月、事業者が来て会うことにしているが、備前市でも自動運転の実証実験をやりたい。ただし、実証実験で万が一のことがあったらいけないので、市営バスの11路線の中で安全に走れるところを決め、将来、備前市で無人のバス運行ができるかどうかを国の補助金を使ってやってみたい。多分、3月には市民の皆様にもホームページ等でお知らせできるのではないかと考えている。これからいろんな交通機関が変化してくる時代だと思っているので、備前市も乗り遅れないように、また健全な経営も考えなければならないので、行財政改革を考えながら身の丈にあっ

た制度設計を考えたい。

ほかはないようなら、これで協議を終え、事務局に進行をお返りする。

事務局：次、次第4 その他 報告事項（1）通所付添サポート事業の活動地区拡大について 地域包括支援センターより説明をお願いしたい。

包 括：（説明）

事務局：何か質問があるか。ないようなら、次に中国運輸局岡山支局より車検証の電子化について紹介したい旨の申し出があったのでお願いしたい。

委 員：（説明）

事務局：最後に、前回会議でご意見をいただいた来年度の生活交通チケットについては、デマンドの導入に伴い、対象者を絞る形で検討していることを報告させていただき、本会議については、以上としたい。

閉会にあたって、本日ご欠席の大東副会長に代り、備前市自治会連絡協議会会長の金本伸一様よりご講評をお願いしたい。

委 員：本日は前回の公共交通会議に続き、皆様方の貴重なご意見・ご質問をいただき深く審議することができた。デマンドの実証にあたっては、これからいろんな問題点もでてくると思うが、事務局や会長からの説明を踏まえながら、また市民が有効に活用することで利便性のある運行になるよう皆様方のご意見等をお受けしながら検討していきたい。

事務局：以上で令和4年度第3回備前市公共交通会議を終了する。

～ 散会 ～